

〔島内流通農産物・島外出荷向け農産物の安定生産〕

菊池レモンの早期成園化技術の開発

～定植3年生の未成木仕立て方の検討～

丸田里江

【要約】定植3年生の菊池レモン未成木は、剪定と摘花を行うことで樹幅、幹径が大きくなり、主枝が伸長した。

【目的】

菊池レモンは八丈島と小笠原で栽培されているマイヤーレモンの一種である。果皮が薄く多汁で、ユーレカレモンとは異なる香りを持ち、島の特産物として有望視されている。しかし、その生育特性や栽培方法は十分把握されていない。そこで、小笠原における早期成園化を目指し、剪定や摘花処理が菊池レモンの初期生育に及ぼす影響を調査した。

【方法】

- 1) 作物：菊池レモン未成木（2年生の苗を2001/11/16に定植）
- 2) 試験区：剪定^{*}・摘花^{*2}，剪定^{*}，摘花^{*2}，放任
（*；2003/4/14，2004/1/6，2004/11/8に主枝2本の開心自然形に整枝剪定。随時樹冠下部の徒長枝等は除去した。*2；2003/4/14より適宜摘花処理を行った。）
- 3) 試験規模：露地栽培 株間2.5m×2.5m 各処理3株
- 4) 調査内容：樹高，主幹径（地表部より15cmの高さ），樹幅，主枝長
- 5) 調査期間：2003/12/25～2004/12/17

【成果の概要】

- 1) 樹高：2003年12月25日の樹高は、剪定・摘花および剪定区の方が摘花および放任区に比べ20cm程度高かった。2004年は台風等の被害がなかったため順調に生育した。2003年4月からの生長率をみると、剪定・摘花および剪定区は剪定後9月上旬まで同じように生育し、170%程度となった。摘花区は徒長枝の影響で樹高の生長率が著しく、12月中旬で245%となった（図1）。
- 2) 樹幅：2004年1月上旬に実施した2回目の剪定後の生育は剪定・摘花区と剪定区でほぼ同じであった。2003年4月からの生長率をみると、剪定・摘花区が最も生長し、3回目の剪定前である2004年11月上旬で440%となった（図2）。
- 3) 幹径：2003年は放任区以外、各区間において同じように生育したが、2004年は剪定・摘花区が最も生育した（図3）。
- 4) 主枝長：2004年4月からの生長率をみると、2004年11月上旬で剪定・摘花および剪定区で130%程度、摘花および放任区で110～120%となった（図4）。
- 5) まとめ：以上より、摘花処理では樹高が著しく高くなるが、剪定することにより樹幅、幹径が大きくなり、主枝も伸長することがわかった。今後は4年目以降の収量等もふまえて検討を加える予定である。

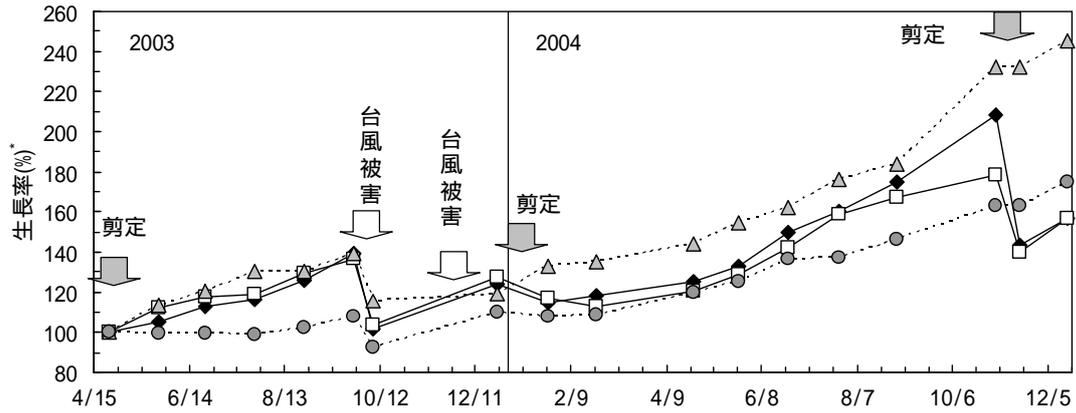


図1 樹高の推移

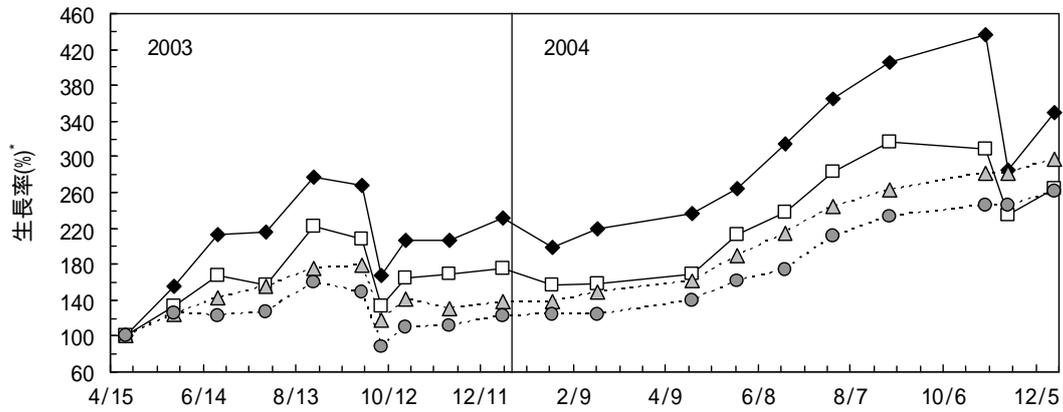


図2 樹幅の推移

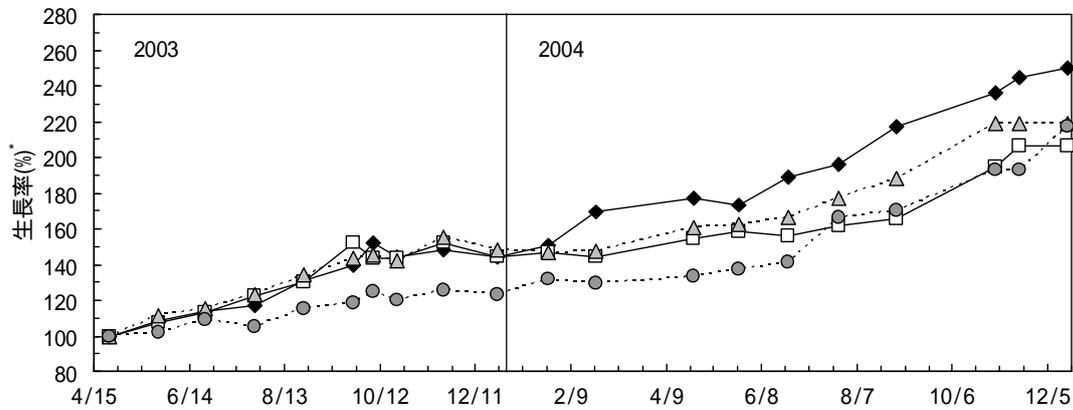


図3 幹径の推移

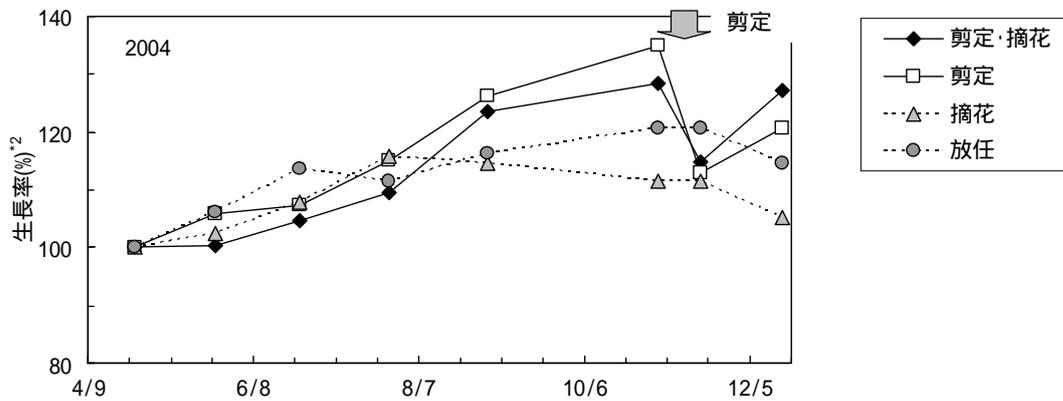


図4 主枝長の推移